

【当日ご参加のみなさま】（合計319名）

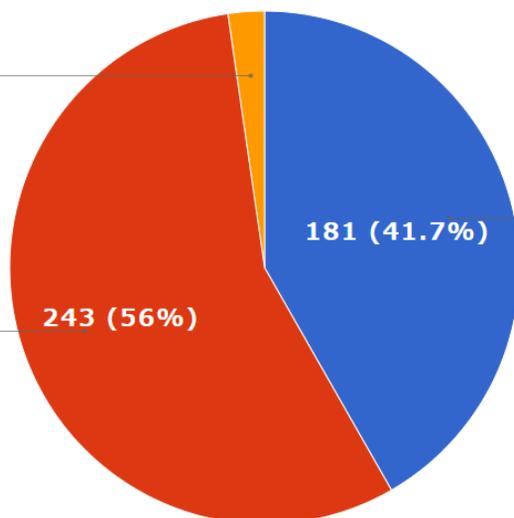
性別

性別無回答

2.3%

女性

56%



男性

41.7%

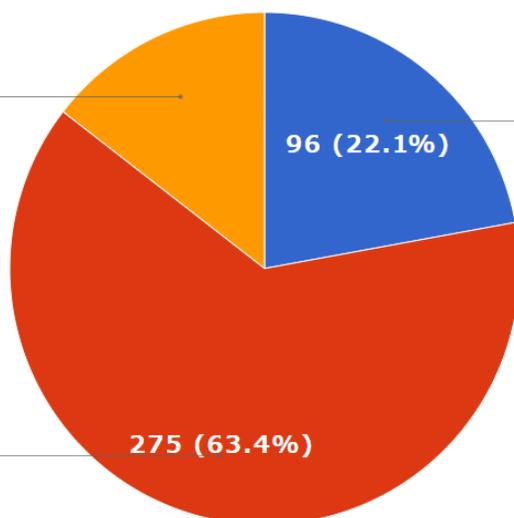
年代

シニア（60歳～）

14.5%

リーダー（35～59歳）

63.4%



アソシエイト（～34歳）

22.1%

職業

学生（国内）

7.1%

分類不能の産業

3.5%

公務（他に分類されないもの）

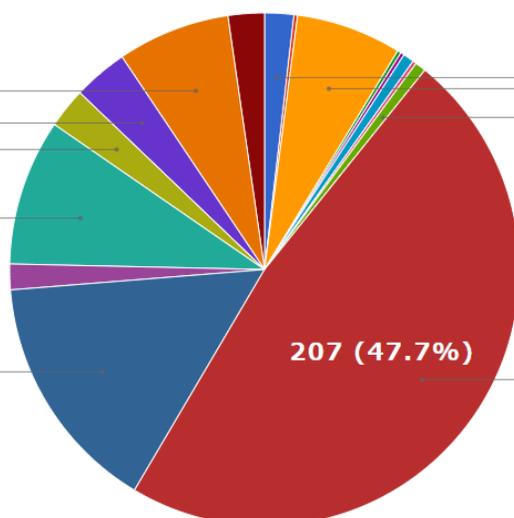
2.5%

サービス業（他に分類されないもの）

9.2%

教育、学習支援業

15.2%



建設業

1.8%

情報通信業

6.7%

飲食店・宿泊業

0.7%

医療・福祉

47.7%

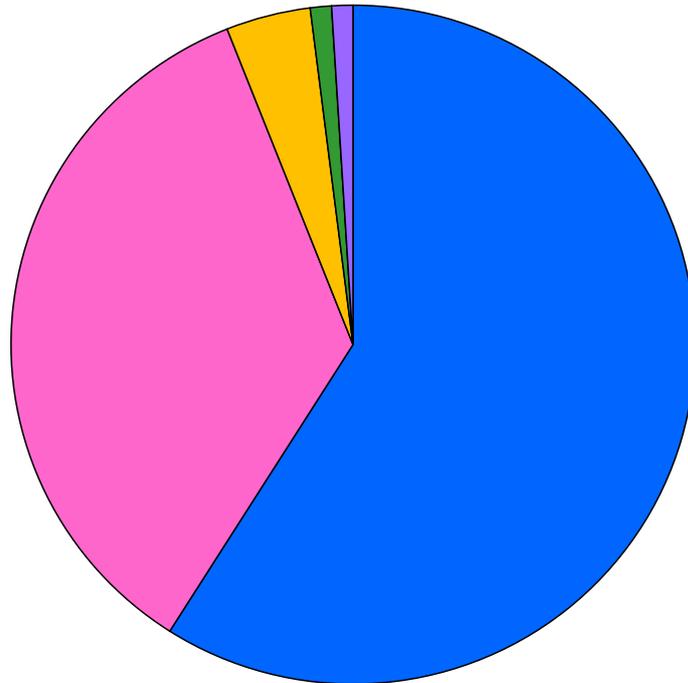
プログラム名 【ライブ配信】ふわりんくる～じょんSD
～感染症が当たり前にある時代に暮らす～

単元名 RA

アンケートタイトル 【ライブ配信】ふわりんくる～じょんSD
～感染症が当たり前にある時代に暮らす～

質問1 Q1. 本日のプログラムの内容は、皆さまの仕事や働き方、考え方の参考になりましたか？

No	解答	人数	%
1	大変参考になった	64	59%
2	参考になった	38	35%
3	どちらでもない	4	4%
4	あまり参考にならなかった	1	1%
5	参考にならなかった	1	1%
合計		108	



質問2 Q2. 【第1部「コロナ感染拡大で生まれた絆
新しい中国での福祉的手助けの形」】
ご意見ご感想をお願いいたします。（自由記述）

【自由記述】

- ・武漢でのコロナ対策の状況がよくわかりました。
- ・すみません。移動中にスマホでお聴きしましたが、ネットの状態から音がよくなくてよくわかりませんでした。
- ・少々長かった
- ・中国という国の障害者についての取り組みについて初めて知ることができ、学ぶべきところがありました。ありがとうございました。
- ・異文化共生と言いつつ、まだまだ支援者と支援される側という気持ちが何処かにこびりついている自分を自覚しました。相手をしり、お互いのいいところをのこしながら認め合う事すぐに実行して行きたいと思います。
- ・正しい情報が得られるということは難しいのかもしれませんが、こういう機会で実情を知るということは大切ですね。
- ・コロナ感染のことで武漢を初めて知って、イメージは良くありませんでしたが、コロナ感染拡大が始まった武漢での市民の方々の不安な様子がよく分かりどんなに怖かっただろうと思いました。日本では前もって情報を得られていたことで コロナ感染予防対策として出ていることとどのように生活すれば良いかを心がけながらできていると思います。亡くなった障害の男の子の犠牲は悲しく思います。私が感染したらと考えていたことでもあります。福祉サービスも充実してきたとはいえ、まだ表面上のことだと私は思います。私の地域だからなのか、何の会にも属さないからなのか分かりませんが、不安です。障害のある子どもを持っていると自宅にいることも多く人との接触も自粛すると、身体も精神面でも変になってたところでした。今回、コロナのことで自宅でのテレビや動画は本当に気持ちのよりどころでした。また、リアルタイムでオンラインで支援が受けられるのは良いなと思います。リアルタイムで気持ちを読んでもらうこともできるのでいいですね。子どもや私自身何かできることを増やして行ける機会でもあると思うのでこの機会に見つけていきたいと思います。
- ・マスコミの報道だけでなく、その地域の方個人個人が情報発信が大事と思いました
- ・改めて、相互理解が重要であると感じました。いつまでも、日本は先進国であるという思い上りが、隣国の知恵を受け入れられなくなっているように思います。新型コロナへの対応も、大いに学ぶところがあると思います。
- ・国民性や政治判断の違いはありますが、民間レベルではみな協力してできることに取り組んだのだとわかりました。障害のある方の情報は全く入ってこなかったのが参考になりました。情報の在り方については偏りがありすぎて、真実を見失います。
- ・中国のITシステムやキャッシュレスは日本より進んでいますね。
- ・コロナに関する報道により、武漢などの実態を知っているつもりでいたが、全くそう

ではないと感じました。メディアによる情報操作とまで言ってしまうと言葉が悪いと感じますが、得られる情報がかなり限られていると感じ、情報インフラ等の設備の充足が今後の社会においてはより求められるのではないかと感じました。

- ・武漢のリアルな状況を、写真も含めて、知ることができて本当に良かったと思っています。ありがとうございました。

- ・リアルな話を聞いて、誤解していた部分があったし、福祉としても子ども、親のつながりをオンラインで行っているところが参考になった

- ・情報は深くないのかな。表面的な情報で誤った理解を行なっているのだと思いました。

- ・都合により第3部から視聴しているため、コメントできません。

- ・どうしても予定の調整ができず、途中で退席してしまいました。後ほどアーカイブで拝見したいと思います。

- ・武漢のお取り組みの今後の深化についても知りたくなりました。

- ・中国についてネガティブなイメージが多く報道されているが、今回、中国国民の草の根の活動を知ることができてよかった。

- ・新しい手だすけの形、日中の繋がりや可能性などを、もう少し引き出せると良かった。

- ・基本的な構造は日本も中国も同じなのではないかと感じました。一番考えなければならぬのは、コロナウィルスに感染するより、その不安とどう向き合うかだと感じました。

- ・私もニュースやテレビで武漢のことは拝見したりしてました。在宅の状況やでの過ごししかたなどはみてましたが、障がいのかたの過ごし方やすごしている状況などは知りませんでした。また見方も変わりました。このような機会ありがとうございます。

- ・何事もリアルな声をきくことが大事だなと思いました。そこからみえるものはただただ受け身で得た情報とは違います。今後日本と中国がいい意味でいろんな交流ができるとよいなと感じました。

- ・中国の現状を知ることが出来た。

- ・コロナに人類が試されている気がした、同じ人類として地域を超えた繋がりや今回の事態で改めて必要なことだと思った。

- ・中国の政治体制によるところも大きいと思いますが、中国の先の見えない禍に対して徹底的に取り組み、国民も愛国心を持って一丸となるところが日本も見習うところがあると感じました。

- ・当事者側の受援力、当事者に対する支援者側の情報発信力が潜在支援者の貢献意欲へのトリガーとなることを知り情報流通の地域コミュニティへの実装上の参考になりました。

- ・中国で進んでいる部分をもっと詳しく知りたいと思いました。オンラインの仕組みで相談等に使えるようなものを知りたいと思いました。

- ・日本でも見えない障害を持つ人はなかなかカミングアウトできず悩むが、中国では見える障害も無いものにされているということは知らされない事実で、当たり前だけどの国でもそこに暮らす人がいて、同じように悲しんだり苦しんだりしているということ。それを伝えられるのは、普通に暮らす民（私達）なんだと思った。
- ・大変勉強になりました。福祉的手助けの日本の優れた点と中国の優れた点を融合して、隣国同士協力しながら、福祉の世界基準を構築していきたいですね。
- ・日本には異文化（多種多様な）を理解する姿勢が足りないという言葉が印象にのこりました。武漢のこともよくわかっていませんでしたし、自分の専門以外のこともよくわかりません。もしかしたら、専門としている領域のこともよくわかっていないかもしれません。すべての人が生きやすい世の中が安心安全だという基本的な事の再確認にもなりました。
- ・TV報道では分らない中国を見れたのが良かった
- ・現場のリアルがとてもよく伝わってきて、大変参考になりました。世の中に伝わっているのは、かなり偏った情報であるがゆえに、とても貴重なお話しでした。
- ・親が感染し、残された子どもの支援について考えさせられました。実際のこういった場合に支援できるかどうか、難しいです。
- ・脳性麻痺のお子さんが亡くなった件は、もしかしたらあり得ると想像していたが、本当に起こってしまっていたことが残念過ぎる
コロナではない、別の原因でもあり得るかもしれない
根本的に手厚い制度の整備から必要だと感じた 中国だけの話ではないと思う
- ・テレビ等の一方向からの情報をそのまま受け止めていたため、今回のお話を聞いて自分の情報収集の低さを感じました。大変勉強になりました。
- ・中国の歴史を支えていたものが、ちゃんと人と人とのつながりであるということ、改めて理解し、その大きさを痛感しました。→国というシステムを支えるには大事なことだと思い、勉強になりました。
- ・社会主義だからできる人の管理方法などはとても斬新で驚きました。障害のある子どもが亡くなってしまったことに関しては衝撃でした。日ごろからの取組の有り無しが災害が起こったときに露呈化すると思いました。しかし、障害のある方に対する働きかけが大きくなった、周りの人が障害を持っている人に対して関心をもつようになったことはこれからにつながることであったと感じました。
- ・本当に、武漢の方々も大変だったと思いました。同じ「人」報道だけをみていると、真実が分からなくなりますね。
- ・報道された誰かの意図が入り込んだ武漢ではなく、現地目線でのコロナへの対応を知ることができてよかったです。「異文化を知り、尊重する。」ことの大切さをお互いが理解して、責任の擦り付け合いや攻撃ではなく、未来志向の話をしていくことが必要だと感じました。
- ・ニュースでは色々と偏った情報が多く、いつも話半分となっていたが、直接当事者の声をきくことができて良かった。
- ・コロナ対策で武漢の都市封鎖が、本当に急で、大変なことだったということがよくわかりました。中国の発達障害の理解が、あまり進んでいないこともわかりました。

・中国での状況を全く知らなかったのでこんな形の福祉もあるんだと考えさせられました。障害児の悲惨な事件も、ある意味、日本でも違う視点で起こりうるのだとも感じています。

・中国のことはニュースなどで、少しは知っているつもりでしたが、私の思っていた現地の状況とは違うものでした。改めて、その場にいる方のお話が聞けて本当に良かったと思います。

・武漢の皆さんのご苦勞や初期の戸惑い、行動、医療現場の様子、そして福祉的支援の現在について、生のお話が伺えて大変良かったです。山口久美さんとの対談という形も大変聞きやすく、的確なつなぎのコメントと質問が素晴らしかったです。ありがとうございました。

・武漢では多くの方が理由も分からず亡くなられた方もおられたようで、お悔やみ申し上げます。

私自身は、これ以上武漢の方々を差別や偏見で苦しめないで欲しいと思います。

武漢に住んでいる方々が悪いわけではありません。また、他地方から団結してコロナと戦った中国の姿勢や対応の速さを日本も見習って欲しいです。

・中国でのコロナ対策について日本では断片的な報道しかなかったが、ほぼ想像した状態だったと納得しました。翻って日本のことを考えると、蔓延した場合に地方は東京を支援したでしょうかね。

・ふだん報道されている共産主義国家のステレオタイプとしての中国と異なり、そこに生活している人がいかに私たちと同じことに悩み、苦しみ、それを解決しようとあがいているのか、ということがよくわかる内容だったと思います。感染症がたやすく国境を超える今だからこそ、より良い解決の方法と一緒に知恵を出し合うという建設的な空気を作っていくことに政治家もマスコミも労力を使ってほしいです。

・人の思い、行動は国が違っても同じなのだと思いました。それにしても報道機関は、1次資料を読まず、取材をせず、裏付けも取らずに報道しているのですね。

・世の中の的に、中国が悪いと批判させてしまっていて、それに私もながされてしまっていました。しかし、武漢での流行時の対応など、見習うべきところはたくさんありましたし、ただ、批判するのではなく、日本の反省すべき部分も見えたと思います。日々、ニュースを見ていると批判する内容が多く、前向きなニュースがなく、悲しくなります。批判し合っているだけでも何も生まれませんと思います。

・コロナウイルス感染症の対応として、広がった後の徹底した対応の速さ、人々の精神的な安心のための全市民対象の検査など早急な対応が大切であると感じました。障害者の暮らしとして、組織の中に家族を含めた緊急支援体制の仕組みづくりを行うことで、現在のニーズ把握や必要な支援ができることから、情報収集と行動力の大切さを学ぶことができました。

全ての人が生きやすい社会づくりのための共生を目指していきたいです。

・武漢と聞くと今は「コロナ発症の地」が真っ先に思い浮かびますが、その土地で起きていることや武漢の人々に対する偏見・差別がどんなものなのかは本日初めて聞くことができました。そのような状態の中で、ITが進んでいる中国だからこそ感染状況をデータ化したり家族への調査がスピーディに進んだことが日本との大きな違いだと思いました。感染を食い止めることはもちろんですが、感染はすでにあるものだとして、現状をとらえるスピード感が重要だと思います。

・武漢でのコロナの最中の様子、更にその後の様子が生に伝わった。障がい者の事件はとても悲しい。このような事は世界のどこでも起こしてはいけない。安心安全の環境を目指していく事は世界の目標である。また、中国でのボランティアを始め人々に人の絆の強さを感じました。我々が、できる事から始めたい。

・私たちが、サービスの利用になれて、家族同士のつながりが分断されてきて、さらにはサービスを担う人材が減少する中で、中国の方たちのある方の事例を通して、実践的福祉的手助けのネットワークの作るスピードの速さと、IT環境の受け入れと充実は、私たちが学ばなければいけないと思いました。さらには、その当事者家族だけの助け合いではなく、家族は、直接支援ではなく、地域の方みんなでの支え合いの仕組みを作ったり、そのための地域への障害理解の啓発や味方になってくれる人づくり、ネットワークづくりがとても大事だと思いました。

・マスコミからの情報やSNSの情報で武漢市ロックダウンの様子は比較的知っていたつもりでしたが、新しい切り口で現場のご苦労を知れて大変勉強になりました。

・多くの日本人と同じように私も、武漢=コロナ、という結びつけしかできていなかったと思いました。そこには暮らしている人がいて、文化があって、当然今回の経験から生まれた取り組みが起きている、ということを知ることができました。

・コロナ対応でもコロナ拡大後も、先に行く中国の取り組みについて知ることができた。違う国にすることで、「知らない」ことがたくさんあって、それが一番怖いことだと感じた。各国で障害のある人たちの捉え方も異なり、そこからお互いが学ぶべきことはあるのだと感じた。

・中国発の情報に全幅の信頼感がないことは多く指摘されていますが、今日の情報が既知のものであれ初めて知るものであれ、信頼できるものなのか確信を持ってませんでした。医療者への絶賛と共に医療者の犠牲に言及が無かったこともかなり不足感が残ります。

・こちらの環境のせいかもしれないが、途中で映像がフリーズしたり音声途切れたりした。きちんとした映像で見てみたいので、オンデマンドでの配信があると嬉しい。見逃した、聞き逃したのかもしれないが、いつ収録したものなのか、知りたい。収録した日付と配信日（今日）とは状況が変わっている部分があると思うので。

・中国・武漢の状況がよくわかりました。遠く離れたは違う国ですが、同じ人としてつながっていることに気づきました。コロナを終息するための取り組みは、2部の豊中社協と同じような、地域のリーダーが活躍していることに加え、行政と民間、住民が一体となって連携しているところに日本との違いもあります。また障害児への支援についてもICTが日常的に普及していることで子ども一人に個別のアプローチができていて、定型発達の子どものと同じ環境で療育をうける機会があることなど。学ぶことが多いと思います。ネットで武漢の様子を見ましたが、とてもきれいなところで一度訪問してみたいと思いました。

・正しい中国の現状を知ることができた。

・失礼ながら、テレビで流れてくる中国の方々のイメージが「自分さえよければ」だったので、このような動きが発生する事を驚くとともに、先入観で見ていた自分を反省しました。両国間の経験が今後の福祉の進化実現につながることを願います。

・日頃自分がいかに、正確に情報を得られていないかを知って、反省してしまいました。正確な情報を知ること・異文化を認め合うことなど、日頃から当たり前に言われている事が、今世界にとって必須だと思いました。綺麗事でなく、実現して行くことがコロナ時代を乗り越える上でとても大切な様にかんじました。

・前半部で感じたことは武漢という言葉が一人歩きし、武漢＝ウイルスの発生源、武漢がしっかりしていないからこうなった、何も対策をしていないと僅かな情報からそのように思っていた自分がいたことに気づかされました。人工的なウイルスとの情報もありますがその上でどの地域も発生源になり得たと思うと東京も同じことになっていた可能性もないとは言い切れないと思います。また中国の自閉症の方に対するステイホームの応援ということで双方向の通信ツールを使ってスポーツの動画や家事の動画など前向きにポジティブに子どもたちがステイホームをしていて何で思いつかなかったのだろうと思います。ほわわを家でやるとしたらこうとかそういうことでなく、もっとそこに縛られない発想がご本人にもご家族にも求められているのだと感じました。

・メディアでは聞くことのできない武漢の実態を聞くことができました。武漢から広がったという事実のみ伝わり、迅速な対応の数々が全く知られていないことが恐ろしくも感じました。1省対1市の支援体制や、地域の管理者や行政の幹部が地域を回っていたこと、買い物の代行など、人と人とのつながりを大切に課題解決する地域性を知ることでもできました。日本よりもはるかにICTが整備されていることもあり、オンライン療育においても、ビッグデータの管理においても、withコロナの時代において学ぶべきことがたくさんあると思います。障害の話から、日本の支援について中国と日本をつなげ、良い文化を学び合いとのお話がありました。オウヤンさんが書かれている記事があるとのことなので、どのように感じていらっしゃるのかとても興味深く、中国の支援のお話もっと聞かせて頂きたいと思いました。

・今後、もっと現地の生の状況や考えを知りたいと思いました。本当にありがとうございました。

・武漢で暮らす人たちにとっては正に青天の霹靂だったのだろうと思います。国としての対応はいろいろ意見ありますが、都市封鎖など即座に対応できたからこそ今の状況があるのだと思います。

・コロナ禍で中国国内に醸成された共同体感覚に感銘を受けた。日本人個人個人も変化に対応する力を持つと思うが、行政や企業といった組織が硬直化しており対応力に大きな課題があることをまに当たりにした。行政、企業、地域のレジリエンスを高めるべし努力したいと思う。

・日本以上の広大な国なので想像以上に福祉の手助けが大変だという状況の中、コロナがきっかけで、今後につながるよう総合的に考えていく必要を改めて感じました。健常者ばかりの中でずっと過ごしてきたので、障害や福祉に関して知らないことが多いことも実感しました。

・知らないことがたくさんありました。
この話を米国大統領が聞かれたら、どうお感じになられるでしょうか。

・閉鎖報道と現地の声がリアル感が違って引き込まれました。小規模分散型の「むそう」の取り組みを取り上げて褒めてくれた事が、なぜかうれしかった。

・武漢での住民同士の助け合いが生まれたことはマスコミではあまり報道されていなかったと思われます。個人の感想だけでなく、より正確な情報があれば信頼性が高まったと思われます。

・災害弱者の様子が、透けて見えないか注意していたつもりだったのですが、見えてこない。既知の情報でした。ここに時間を取りすぎでした。むしろシンポのゲストの絡みに時間を割り振るべきと考えます。

・まずは、武漢という町を知らなかったです。今回のお話を聞いて、すごく大きな街でとても発展していることも知りました。また報道を見ていて、まるで武漢が悪い！みたいな気持ちになっていたことも深く反省いたしました。生の声を聞いて、正しい情報をとりにいき、判断していく大切さを戒めとして考えてささられました。

・わかりやすく実情を伝えていただけて、とてもよかったです。障害のある子供の死は痛ましいことでしたが、これをきっかけに運動が始まったことはすばらしいこと。日本でも苦しい状況にある方々はきっとたくさんいることでしょうね。偏った見方をしないように・・・と日頃から心がけているつもりでしたが、実際の様子をレポートいただき、やはり受け取る情報がコントロールされていたり、無意識の差別や偏見が自分の中にもあったのではないかということを感じました。

・一般的な報道では伝わってこない中国・武漢での暮らしやコロナによって起こったこと、課題や対応等をリアルに聞くことができ、大変有意義でした。

・武漢での実態を聞くことがなかったので、臨場感をもって聞きました。何もわからない中、医療関係者や福祉関係者の方々が必死に苦難に立ち向かおうとしていた話に胸がつまる思いがしました。これはたくさんの人に知ってほしい内容です。

・ロックダウンの最中に、悲しい事件が起こり、元々あった課題がはっきりと表面に現れ、その解決に向けて関係者が迅速に動き、連携、支援の新たなシステムが生まれたこと。様々な工夫がなされていること。その動きは素晴らしいと思った。いきなりの休校で、オンライン授業の構築もままならなかったわが国。ネット環境が整わず、受講できる環境が整っていない家庭が少なくなかったことが大きい。スマホの画面で動画を見ている中国のお子さんの笑顔が印象的だった。新しい生活様式を始めている中国での様子も伝えられた。現地をよく知る方からの報告は、リアルに迫るものがあり、わかりやすかった。

・武漢の話は、報道で聞いていた印象と全く違った。同じ人間として市民の様子や思いがわかり共感できた。中国の障害理解や福祉制度の様子がわかった。発達障害者支援について、日本が進んでいるといわれて、複雑な思いがした。

・中国の印象が変わって良かったです。もっと関心を持つきっかけになりました。

・武漢の市民が、行政や医療従事者の方へとても感謝していて、それをしっかりかたちとして伝えている姿が印象的でした。

質問3 Q3. 【第2部「コロナが『予現』させた2030年代の東京（と日本）の医療・福祉・経済・暮らし」】 ご意見ご感想をお願いいたします。（自由記述）

【自由記述】

- ・東京中心のお話でしたが、地方の都市部にも似たような課題があり、とても参考になりました。
- ・都内自治体職員です。わたくしもこのコロナの影響は2030年代の東京都の姿と考えており、短期 リモートツールを最大限活用する支援施策の構築 行政事務の簡素化(rpaの活用ほか) 関係者と既存で使えるツールを最大限生かす支援策の立案と関係者の意識改革を進めています。 中長期 データ分析による施策の再構築を改めて事務立案の礎とする。今の若手の育成と組織としてチャレンジする風土づくり が重要と感じました。戸枝理事長さんが話されていたように、私も写真でデータ分析の場面を振り返りさせていただきます。
- ・非常に興味深いお話でした。特に東京といっても23区でこれほど状況が異なる点が数値で表されるとびっくりさせられました。
- ・川北さんのお話は生なら良いのですが、ネットゆえ、早すぎて頭に入ってきませんでした。もう少し伝える、わからせる気配りをいただくとありがたかった。川北さんの話の後に戸枝さんがまとめてくださったのわかりやすくよかった。
- ・2030年の東京の予測データが大変面白かった
- ・目先のことから、10年15年先の未来についてイメージしていくことの大切さを感じました。
- ・データの読みが深いなあ。りだんだんしーは経済や企業、インフラだけではなく、心にも必要では無いかと思いました
- ・10年後という感覚が自分がないことに愕然としました。10年後は60代、自分の役割って何かを再考しなければならないと思います。
- ・お給料が少なくてもヘルパー仕事されている方は優しい方ばかりです。でも、やっぱりお世話になってる方にはたくさんお返ししたいです。
- ・今後、新しい価値観が生まれる中、介護福祉も今までの固定概念の殻を破る様な運営が必要と思います
- ・具体的な数字を提示され、「危機的な状況なんだ」という事を知りました。政治に期待できないと感じている人々に、この先、どういう社会でありたいかという夢を広く描くことから始めたいと思いました。
- ・近い未来の状態を数字で示していただきながら説明され、とても身近に感じました。目の前の課題をいま取り組んでいかなければ、と思いました。
- ・東京の未来に驚きです。
- ・それぞれの方が、現場のリアルさと俯瞰した視点と、データの裏付けを持ちながら見せてくださり、大変勉強になりました。私たちもこのように情報や提言発信をしていく

べきと言うことがよく分かりました

・東京、怖いですね。この問題に政治家はどう対応するのでしょうか？川北さんの話は国会ですべきでは？知らなすぎますね。

・都合により第3部から視聴しているため、コメントできません。

・どうしても予定の調整ができず、途中で退席してしまいました。後ほどアーカイブで拝見したいと思います。

・東京都職員の方が聞いてくださっていたことを祈ります。

・データに基づいた話は迫力があつた。

・数字を見ながら反芻したいです。

・今、リハーサルができた、という言葉に本当に勇気づけられました。現状をむしろ前向きに考えていきたいと思っています。

・東京での数値や高齢、後期高齢者東京だけでなく、各都道府県でもかんがえられるかなとも思いました。予防的なアプローチは重要と感じました。いろんな状況、この先をどうしていくかを考えて、社会についで考えていくことが数値としてわかりやすかったです。まだまだ地域や社会のことはもっと考えていかないといけないと感じています。ありがとうございました。

・難しかったです、データからみると具体的に考えられることもあります。世田谷在住のものとして、この後この地域がどうなっていくか、そうだとする暮らしがどうなのかを少しだけ考えられました。もう一度振り返りたいと思います。

・コロナで人口減少に伴う日本が迎える未来が、少し早まったのかなと感じる。また都会の現状や、都会特有の抱える問題を知ることが出来た。これを自分たちの地域にどう置き換えるか、またじっくりアーカイブを見て考えていきたい。

・大変な世の中が来るんだと実感した。それを踏まえて自分は、自分たちはどうだれと繋がって行くのか考えていきたい。

・2030年に訪れる課題は以前から危惧されてきたのかもしれませんが、新型コロナによりより一層の危機感と、新型コロナのような事態では力業(人海戦術)ではどうにもならないことが明らかになったような気がします。

・統計データに基づくエビデンスアプローチで論理的にお示しいただき参考となりました。予現事実に対してどう対応するかについて検討する契機となりました。

・人の暮らしにどのように税金を使うのか真剣に考えてくれる政治家の方が欲しいのですが、周りで提言をしてくれる専門家も欲しいと思いました。

・一都集中が問題になっているので、労働力も東京が圧倒的に強いと思っていたが、高齢化、女性活用を含めて課題が山盛り。今年の都知事選では、責任をもって課題に向き合ってくれる人が当選してほしい。

・素晴らしい分析に感銘を受けました。人口動態と経済的指標、地方自治体財政状況をAIデータ分析してリアルタイムで現状をダッシュボード化する「AIxマネジメント」が可能ではないかと考えています。

・危機感を何をきっかけに深く知ることが出来るかどうかとの問いかけに、自分が日常どのような姿勢で生きているのかという振り返りになりました。経済のこと、今まで異分野ということで逃げてきた感があります。

・これまでなかなか知り得なかった、東京という首都圏の将来見通しを伺うことができ、とても参考になりました。都市インフラの充実度＝独居後期高齢者増（例：渋谷区）という視点は、とても新鮮でした。また、社会資本などで用いられる「リダンダンシー」という概念が、地域社会づくりでも不可欠であるという点は、とても共感しました。ありがとうございました。

・東京都区部の中でも区によって、高齢化率が異なるグラフは興味深いものでした。

・10年早まった とても腑に落ちる話だった
リモートでの会議、在宅業務、不要になる紙や印鑑 将来そうなるだろうと言う話はこれまでもあり、一部企業では実施されているが、今回一気に広がり、当たり前になる東京の既婚女性の就労率が低い原因にも踏み込んで欲しかった

・東京世田谷区に住んでいるので、人ごとではないことをより感じました。流動性がある東京でどのようにコミュニティを作っていくかを考えていきたいと思いました。

・強烈にご指摘、気づきをいただき、感謝しかありません。いつも川北さんのお話を聞いて、目の前のことと未来のこと、バランスよく進んでいける指針になっています。

・孤立化という問題は地方に限らず、大都市圏にも大きな問題となるということが分かりました。地域特性、地域の人々の考え方を理解していくことが地域をどう作っていくのかにつながっていくのだと感じました。

・データに基づく今後が見えました。展開が早く、もう一度、じっくり聴きなりたいです。現実と、見通しを注視し、柔軟な発想で、世の中が変わる機会が、コロナによって強制的に与えられたとも感じました。自粛や、在宅ワークなどで、満員電車も改善されたり、家でも出来る！ということも分かり「なんだ一、やればできるんじゃない」ということもたくさんあった。でも、元に戻りたがるんだな一。もったいない。労働分配率！方向性の転換をしないと！

・データに基づき、明快な語り口で、非常に聞きやすかったです。何が起こるか分からない、予測の難しい世界ではあるものの、冷静にデータを分析して、エビデンスベースで話を展開する姿勢を持っていただきたいです。

・見通しが暗いな…と思いました。以前の若手官僚のまとめ？提言？を思い出しました。

・データでみると、東京の世帯構成はやっぱり独特なんだということが、よくわかりました。

・データ解析など難しいところもありましたが、後ほど動画が見れるようになりましたら、ゆっくりと見返しをしたいと思います。

・テンポ良いお話しぶりで、とても聞きやすかったです。パソコン上ではグラフもよく見えました。いくつか、また見返したいグラフがありましたので、動画が配信されたらまた復習してみたいと思います。東京の配偶者がいる女性がもっと働けば…という話に共感しました。そのための環境整備や、一番大きいかも？と思われる「配偶者の理解」といったところも含めて、具体的に改善が進めばいいのに…と思いました。

・都市部崩壊も時間の問題だと感じました。

人々は人の支えがないと生きていけないと思います。専門分野にとらわれすぎず先を見据えた制度にどんどん進化して行って欲しいと思いました。

・理解するのが難しい内容でした。但し、東京の将来的な問題点をご指摘通りでしょう。但し、本当の将来は予測を外れるように変化するでしょうが。都市の郊外から駅前への移動のように。また、データの中で岩手県等の地方が年寄りも多いが子供も多いというのは驚きました。

・伊丹市民です。以前小規模多機能自治についての川北さんのお話をうかがったときに、伊丹の町ごとのデータ分析を詳しくされていたのに感銘を受けました。今回も変わらずの分析で説得力ありますね。福祉に携わる者としては事例から直観的に話をしてしまいがちなので、データによってその直感が裏付けられると提案力がつくと思うのですが、なかなかですね。

・どう考えても未来は明るくないという印象ですね。数値で思い知りました。

・東京の高齢化がここまで進んでいることに驚きました。スライドの文字が見えなかったため、オンデマンドで再度、受講したいと思います。

・自分の地域や日本だけでなく、世界も含めて共生を目指し、過去のことではなく、物事やニーズを未来予測から逆算して考えることで今の目先ではなく、この先を考えることが大切だと感じました。これからの社会を一緒に作るということ、そのために何が問題で課題なのか見つけ、解決していくことが必要だと思いました。そのためにもデータ化し、数字で見ることでどこでどんな問題が起きるのか明確に知ることができるので、視覚化をもっとしていきたいと思います。

・川北さんのデータをもとに、「福祉」がとらえられどういうものなのかを考えるきっかけになりました。福祉人材が少ないという問題に直面する中で、福祉の中のみで解決しようとするのではなく、低所得化した家への支援がないと福祉人材の問題の解決にはならないという発想がありませんでした。物事を表面的にとらえ解決するのではなく、それがどういうものなのかから考えるというものの見方は日常的にもできると思います。

・コロナ後の医療・福祉・経済・くらしと超高齢化問題をデータでわかりやすく説明頂きありがとうございます。東京だけではなく日本全体の問題であることがわかった。まだ見ぬ、新しい立体的な働き方を目指したい

・親の会も、要望エゴを乗り越えて、未来志向で、一緒にやれるところを探していく提案型の運動をしないといけないと思いました。

・高齢化や一人暮らしの生々しいデータを前にすると何か有効な策が生み出されるような希望を感じました。全体的にはデータで驚いてしまって、ちょっと理解が追いつかないので、アーカイブをもう一度ゆっくり見させて頂きたいと思います。

・全部は聞けなかったのですが、短期的な視点、長期的な視点、期間を分けて考えることで見えること気付かされました。若者や日頃会社勤務で地域に不在だった層は中々地域やコミュニティを必要と実感する機会がないかもしれないけれど今回のコロナで、自分のコミュニティの中で過ごし、遠くの親族を頼れない環境に置かれ、地域のつながりが豊かであることの必要性や安心感を持ったのではないかと思います。コロナが今後の地域づくりに与えた影響があったと思いたいです

・その地域にある資源をいかに活用していくかが重要で、それが地域を作っていくのであると感じた。

・興味深かったのですがついていけませんでした。

・こちらの環境のせいかもしれないが、途中で映像がフリーズしたり音声途切れたりした。きちんとした映像で見てみたいので、オンデマンドでの配信があると嬉しい。見逃した、聞き逃したのかもしれないが、いつ収録したものなのか、知りたい。収録した日付と配信日（今日）とは状況が変わっている部分があると思うので。

・5年、10年、20年先の人口分布を可視化されることで、日本の国が超高齢化社会に向かっていることを感じ、ぞっとしました。今は私は30代です。30、40代の福祉人が今後の日本の事を把握せず目の前の事だけに向かっているといけないと思いました。自分の働き方も含めて考えたいと思います。

・豊かであろう東京というイメージが変わりました。東京でさえ、将来、金がない、人がいない、コミュニティさえ作れない、利便性が高い故の後期高齢者の孤独化という未来が待っているかもしれない事実、ちょっとため息です。今回のコロナ禍で浮き彫りされてきたこと。医療崩壊とか、ステイホームによる家の安全神話の崩壊とか、自然災害時等の問題とか、元々あった課題が加速され表面化したという話があったが、正しく同感。実際に福祉現場としては、かなり神経を使ったし、改めて非常時に強い組織を作る必要性を実感したが、どこか今回のコロナ禍を冷静に見ている部分もあったし、未来への投資を始めている。それは、去年の川北さんのお話を伺って、長期的な思考の大切さや、体系的に見て考えることの大切さを教わったことが大きいと実感している。今回のお話も同様に感じ、良い学びとなりました。

・日頃耳にする高齢化について、何となくしか興味を持っていなかったのですが、ちゃんとしたデータに基づくお話は説得力があり、えらいこっちゃ！と焦りました。福祉業界の問題が福祉業界の中だけでは解決できないことが良くわかり、目的主義的に未来に着目することで地域エゴを乗り越えることでできあがる共同体作りがどんなものになるのか見届けられると良いと思いました。

・少し駆け足で、自分には理解が追いつかない部分もありましたが、データで示されると、現実味を帯びて、いろいろなことが怖くなってしまいました。東京どうになってしまうのでしょうか。データや情報を正確に知って、将来的な展望を早急に考えないと思いませんでした。

・川北さんの情報量の多さに追いつこうと必死でした。また内容もとても衝撃的でした。世田谷区の高齢者増がなぜなのか気になるところでしたが、各区における高齢者負担の急激な増加、また施設等への修繕等にかかる負担が現状の入りで全くそぐわないということから行政ではなく企業に目を向けるということの意味がわかり始めました。

・東京の高齢化の未来が、様々な数字から目に浮かぶようにわかりました。

同じ日本においても、住む人の年齢 家族構成

居住年数などの分布図から、地域性が全く違うこと。23区の中でも全く違うこと。またその地域性によって2030年代にやってくる地域課題が全く変わってくるということがわかりました。地域の暮らしを医療や福祉、経済で支えていく時に、方法は様々で、その地域性を知り、課題を考え、解決方法も数字から見えてくるのが驚きでした。人間ドックを定期的にするように、俯瞰的に共通の数字を見て、今起きていることを広く捉える。目の前のニーズを一つ一つ向き合うことと同時に、俯瞰的に物事をとらえ、10年先の地域の中で必要とされることを考えていくことは、今の私には全く持ててい

ない視点でしたので、とても勉強になりました。未来予測を元に、地域で競い合うのではなく、同じ課題を持つ地域同士が底上げをしていくという話がとても印象に残りました。

- ・データからの情報を丸飲むするのではなく、いかに情報を分析して知恵を出して改革をしていくかが大切だと思いました。ありがとうございました。

- ・自分も含め周囲がどんどん高齢化し、医療サービスを受けられるかどうかの格差が広がっていく未来に暗鬱な気持ちになります。

- ・2030年頃にやってくるこの国の闇は避けられず、尚且つ課題解決の道筋がまったく見えない。正直突き付けられた課題に途方にくれているが、立ち止まることなく行動していかなければと背中を押された。

- ・大変興味深い分析で、前期高齢者として、今後の参考になりました。

- ・川北さんのデータ分析は、いつもどおりわかりやすく、我が地域の未来を考える上でとても参考になりました。

- ・毎回データの読み込みがすごくて感心します。統計学なのかな？読み込みができるようになりたい。

- ・データを基にしたprospectiveな見解が参考になりました。データの使い方や、資源の再分配の仕方が大きな政策課題との認識が強まりました。

- ・統計から浮かび上がる超高齢社会から話を進めたために、話題が高齢者の課題に閉じてしまいました。戸枝さんが参加されていたので、障害児者への語りが入ることを期待していました。残念です。

- ・数字で追うと、自分ごととイメージができ、他人ごとではない実感と、何をすべきかを考えら機会となりました。また復習したいと思います

- ・もう少しゆっくり聞きたかったです。小さなパソコンの画面で数字を追っていくには、かなりの集中力が必要でした。

- ・データに基づく課題提起についてはなるほどと思うことが多かったのですが、限られた時間内でかなりボリュームのあったお話（しかもかなり高速で）だったこと、では具体的にどう考えるべきなのか等について、正直十分に消化できたわけではありません。

- ・一番最後に高齢化がやってくると言われてきた東京の現状と10年後。すでに高齢社会に突入していることは、東京で暮らしている者としての実感はあるが、これほどまでに急激な変化を伴うことに衝撃を受けた。外出自粛で昼間、買い物や犬の散歩で出かけるようになり、地域に一人暮らしの高齢者が増えていることを実感していただけに。関わっている調査などで、全国のさまざまな良い取り組みに触れてはいるが、さて、地元で何をどうするのか。結局は地道にやっていくしかないことも痛感している。のんびりした感想しか浮かばないが、マスク装着で外出するようになったら、集合住宅内でも挨拶を交わす機会が増え、お互いをそこはかとなく気遣う機運が生まれようとしているみたいで、そのところは良い兆し。確かに5年も同じところに住み続ける人が少ないとしても、今、このときは、感染防止という同じ目的に取り組んでいる共感めいたものはあるかもしれない。

・コロナのパラダイムシフトのひとつに「都市集中」がいられているが、密集以外に、東京が今後抱える深刻な課題をデータで知ることができた。多様性のある社会づくり、労働分配含め、何ができるか、どうやったらできるか、難しくても具体的に話し合いを続けていかないと、思考停止で逃げるしかないと思った。

・データの持つ根拠に対して学びが深まりました。

・たくさんのデータやグラフについていけず、頭をフル回転させて疲れましたが、とてもテンポがよく、ワクワクするお話でした。

東京に専業主婦が多いことに驚きました。主婦が働く、確かにとは思いますが、家事や子育ての環境が現状のままで、仕事だけが乗ってきたら恐ろしい話です。給料の発生する仕事を再分配することはもちろん、無償の労働である家事・子育て・地域活動の再分配もしないとなと思いました。

質問4 Q4.【第3部 シンポジウム「感染症が当たり前にある時代に暮らす」】ご意見
見ご感想をお願いいたします。（自由記述）

【自由記述】

- ・今日は見る時間がなく。改めて拝聴します。
- ・今回は途中までの視聴でした。
- ・たいへん参考になり、考えさせられることが多く、有益でした。ありがとうございます。
- ・このシンポジウムだけでも良かったように思う。
- ・シンポジストの皆さんのご意見に非常に刺激を受けました。正しく恐れ、変えなければいけないことを変えて行こうと思いました。ありがとうございました。
- ・日々考えながら活動しておられる方々の概念かというかデータ化の力が凄い。
- ・3名の方全ての話に惹きつけられました。特に冨田さんのおっしゃることは、本当に考えなければならないことだなと思います。何が出来るかというより、一歩でも半歩でも考えて進まなければならないと思います。
- ・日常社会にもどる分断のことで考えてました。肺炎をよく起こす障害の子どもがいることで、コロナ感染しないように仕事を休まざるを得ませんでした。感染率が下がってくると、職場の復帰を促してきます。職場の理解はあると思ってますが、申し訳なさでいっぱいです。またどこで職場復帰を判断したらいいか分かりません。梶原看護師さんの話を聞きたくて参加しました。訪看さんのコロナ対策をマネできるかの判断ですかね。因みに介護職です。うちにはコロナだけでなく、相談できる機関は必要です。
- ・長期化するコロナの対応でチャンスと考えて前向きな発想が必要だと思います。想像しなかった物が、流行る事がこれからも生まれると考えていこうと思います。
- ・コロナ前からの課題が表面化し、強化したのだと思いました。個人的には、「学童保育」の事が気になっています。学校が休校している中、開くことを強要された。非正規の職員が支えていることを、どれだけ国民に認識されたでしょうか？公立の学童が民営化を進められていた中、今回のコロナ騒動で、役割だけを押し付けられ、それを支えている人達の事には注目されていないのは残念なことです。女性が社会の担い手になるために、どこを整備する必要があるのかを整理していきましょう。指導員に、感謝の
- ・いろいろな立場の方のお話が聞け、様々な活動がこの間に行われていたことを知りました。自分の事業所のヘルパーに命を懸けて支援に入ってくれていたことを感謝したいと思いました。頑張っているのは医療従事者だけではないですが、福祉は発信力が弱いのですかね～
- ・現場の柔軟性が大切。そのためにも多職種連携、複数領域での経験、勉強、つながりは大事にしていこうと思います。
- ・勝部さんの豊中での精力的な活動いつも頼もしく拝見させていただいています。わが地域でも参考にしたいと思っています。冨田さんの啓示に満ちた話もとても脳内を活性化させていただきました。ゆっくり咀嚼したいと思います。

・感染対策・・・日常的にしていれば大丈夫、と確信しています。（医療職）

・これから事業を展開するうえでとても参考になった

・暮らし方や働き方を変えなければならないと思います。

他業種と繋がるうとすれば、現在の優位性が働いて繋がれないことが多くあります。医療も素晴らしいけど、介護も命と生活を支えて要するという認識をもっと中央にいる人たちが理解して欲しいと思います。お金がある人は具体的な大変さはみなくてもすみずみからね。そこをちゃんと見れる人が政治に関わって欲しいです。

・福祉の活動場面やそのための準備などで、それぞれの方が知恵を絞り、工夫して、周囲との協力を得ながら対応されている、その内容を知ることができて、参考になりました。

・様子見をしているのではなく、これに向かって動いていくということに共感します。逆境はチャンス。そして、このような時期には、若い人たちの「勘」が正しいと思っています。若い人たちの「勘」を信じ、若い人たちが生み出す新しい生活様式を、大人たちが社会的に適合するように整えていけると良いですね！

・短中期的には、様子見しないで、連携し、やってみる。長期的には、データ等将来から見て、根本的に変えていくべきことに取り組む。という2つを並行してやるべきだと思いました。

・医療関係者に比べ、福祉に携わる方々が正当に評価されていないことが、現場の状況をお話しいただいてよくわかった。

・やは「4」の特性が、世の中を変えていくと確信しました。

・コロナにより炙り出された課題に向き合う。コロナ時代のリーダーシップは、リスクを引き受けること、様子見ではなくできることを仕掛けていくこと。

専門性とはゼネラル専門職に、分業ではない地域が生き残るなど実践者の皆さんから多くの知見をいただきました。ありがとうございました。

・様々な課題がコロナ感染症の事で浮き彫りになったと思います。その課題をどのように集約し立ち向かい、共生していくかがイメージできたように思います。地域で生活することをまず考え、そのために関係者が何をすべきで仕組みにしていくべきかを感がて行きたいと思いました。ありがとうございました。

・感染症と不自由なく向き合える社会が必要なのだと考えました。専門職としてしっかり未来を見据えて仕事をしなければと思っています。

・集まらなくても離れていても繋がれる手法、現場でリモートであったり、どう利用者の方に関わるか、気を付けている所がよくわかりました。訪問はどの現場でもとだえることはなく、どうしていくか、世の中の状況によってこちらでも考えていくことは大切なことだと感じています。現場ではマスクや消毒が実際なくなっていた状況も改善されつつありますが、どうなるか不安でした。暮らし、暮らしていくためにということがどれだけ大変でも必要なこと、当たり前とおもわずと思います。

・盛りだくさんでしたがとてもよかったです。ミクロとマクロの視点で、分断や連携、環境について考えなければと思いました。自分の暮らしの中でできることはないか考えたいです。

・各分野の方のご意見をお聞きして、最後のトピックスになった、分断や専門化をどう超えていくかが課題なのだと実感した。福祉を超えて、どう協働していくか、だれも、今までの歴史を振り返っても答えは難しいかもしれない。でも、前を見ている人たちと繋がり方は必ず見えてくる気もする。やはり個人が「考える」「実行する」ことが急務だと思う。

・専門性はあれど、同じ人として。役割を超えた、というか役割を尊重しながらお仕事して行こう。みんなで力を合わせたら絶対に大丈夫。

・看護、介護、社協それぞれが新型コロナによりこれまでのやり方では通用しない実情が良く分かりました。IT技術と人間の知恵を掛け合わせ、他業種との連携を取りながら対応が重要になると思いました。

・現場知を開示くださり机上の空論ではなく限られた条件下で一生懸命取り組まれる姿勢に地域問題に取り組む心構えを学びました。

・医療と福祉等の連携ができるしくみが地域に必要なと感じました。まずは知り合っって信頼関係を作る必要を感じました。

・専門職で知識を増やしていけばよいと考えていたが、多領域に強くなることも地方では必要。考えを改めたいと思います。あらたな気づきをいただきました。

・すみません、老母介護で聞き漏らしました。

・私は分業から協働への変換が叫ばれ始めた時に相談支援をしていました。保健師との協働、行政との協働をしてきたつもりですが、皆さんのお話を聞くとまだまだだったと思います。いろんな業種の人のがのりしろをもって関わっていくことの大切さを再認識しました。

・考えがまとまらないですが、物理的な人と人の接触は減少するけど、WEBを駆使して生活・仕事を継続するための新たなコロニーが誕生するのかな。

・とても充実したディスカッションだったと思います。ご登壇された皆さま、ありがとうございました。（皆さんに大きな拍手を送りたかったです。「いいね」ボタンのようなものがあればいいのに・・・と思いました。）

・コロナ以前のような生活様式に戻るのには、何年もかかることが予想されます。早く自分たちに合った支援方法を見つけていかなければと考えます。

・現場でのリアルな話の中で、勝部さんの往復はがき、梶原さんのラップ製フェイスシールドなど、ヒントをいただけた。確かに医療関係者は命を救うために命をかけていらっしゃるが、福祉関係者も命を守るために命をかけている。価値が違うことはないはず

・これまであった問題がこの状況によって浮き彫りになったということは日々私なりに感じていました。分断化をどう超えていくか、つまり連携を強化していくということとはどういうことか、自分の問題として考えることができました。

・パネリストの皆さんのご活動もさることながら、広い視野がモテました。たくさん学ばせていただきました。

・今回のシンポジウムは、問題を解決しようとしたからできた制度が今になって問題になっていたり制度の矛盾を大きく感じました。ソーシャルワーカーは専門性を持っているからこそ生かせる、ソーシャルワーカーならではの視点で取り組むということが

これからは統合していってしまったら支援がしきれなくなってしまうような気がしました。しかし、分業化から統合の意見にも納得してしまい、難しい問題であると思いました。豊中市でのつながりを得るための取組はとても魅力的でした。正しく恐れるためにガイドラインを作る、先にアンケートをして意見に耳を傾けていることが、市民の主体を持つということにつながると思いました。新たなつながりを作ることができるのではないかという考えや、新しく人材が不足しているところに得意を生かすという視点がこれからの時代を進んでいく中で必要であると感じました。

・皆さんのお話し、全て参考になりました。私自身、ここからの変化に力を頂きました。皆様、ありがとうございました。戸枝さん！お久しぶりにお姿を拝見でき、お元気そうで、よかったです。お疲れ様でした。

・各方面でのリアルを伺うことができ、貴重な時間でした。私は教育現場に身を置いています。人の生活は連続的なものであり、専門性によって分断できないことだと思います。今まで以上に、福祉の視点も持ち続けたいとの思いが増しました。今までにない今が続く現在、様子見ではなくどんどんやっていく。その機転と行動力が求められていることを実感し、自分自身の成長にストイックであり続けたいと思うとともに、これからの未来を担う子どもたちの人材育成に携わりたいと思います。

・情報インフラの整備、AIの活用とともに、ベーシックインカムへの移行が見えてくるように思いました。福祉医療も他のエッセンシャルワーカー同様、移行する・させる部分が早まっていくのではないかなとか。

あと、直近の対応もいろいろアイデア等、youtube等で共有期待

・コロナが流行り出した当初は、しばらくすればこれまでと変わらない暮らしに戻ると思っていました。今では新しい暮らしの当たり前ができていくとおもっています。

そのことが具体的に想像できる良い機会となりました。

その場での手作りフェイスシールドのお話、とても参考になりました。もともと、より良い連携や支援には、各領域から少しはみ出した支援が必要だと思っていました。同じようなお考えを伺うこともでき、とても共感出来ました。

・皆さんのそれぞれの立場からのご意見本当に勉強になりました。福祉の弱さの部分や医療との本当の意味での共有協働の働きかけの難しさも。梶原さんの言葉が、介護保険の始まる前のヘルパーさんだったり訪看Nsさんだったり思い出しました。

・現状に戸惑うことが多い中、考えさせられる内容でした。

・さまざまな職種、立場の方々の、それぞれの視点からのお話を大変興味深く伺いました。YouTubeでの配信のお話や、サランラップでのフェイスシールドの実演など、具体的なところが印象に残っています。また、ファシリテーターの先生が素晴らしく、無観客であるにも関わらず、とても生き生きとしたまとまりのあるシンポジウムだったと思います。これから世界でも最先端に行く東京・日本の超高齢社会を生きる一人として、何が出来るんだろう…と考えながら聞いていました。私はフルタイム勤務をしているので、すぐに取り掛かれるとしたら副業的な関わりなんでしょうけれど、現場に行かなくてもできる支援？それこそ、忙しい現場の皆さんのために役立つ情報を動画で配信するとか？何かそういった間接的な形でも、お役に立てることはないかなと考えていました。

・個人的には、ウイルスはどこにでもあり、生きていくには避けて通れないと思っておりました。自己免疫力アップを常日頃から心がけ、十分な睡眠・栄養ある食事・適度な運動・手洗い・うがいがどのウイルスに対しても基本だと思っています。

その+αが医療ではないかと思っております。
ウイルスと上手く向き合っていくしかないと思います。

- ・介護関係者が発想力豊かで元気なのに驚きました。
- ・気になるワードがいくつも出てきて刺激的でした。環境について議論をする必要性、分野を乗り越えるには、といったところが心に刺さりましたが、特に最後の川北さんの、分業型から協業型へのお話がすごく納得です。
- ・実践に基づいた三者の提言がたいへん有意義でした（とりわけ富田さん）。あまりに面白すぎて前半の印象がとんでしまいました・・・。
- ・このウイルスは、何年たっても収まらないと思います。日本だけが封じ込めに成功する。グローバル時代のいま、そう思うことは幻想です。先々、治療法が確立すれば、エイズと同じような位置づけになるのではないかと感じています。エイズ同様にどう恐れるのか、共存するのか、まさしくシンポジウムのテーマ通りの展開になりそうだと思います。
- ・今回、コロナの影響で、利用者さんの生活にも大きく変化がありました。コロナが災害だとして、国や地域の動きを様子見ではなく、自分たちが仕掛けていかなければならない、逆にチャンスであるということから、自分の緊急時の対応の悪さに日々反省です。今後もコロナ以外の感染症が現れたり、また自然災害が必ずあるとして、それに備え、日々が緊急として地域を見ていかなければと思います。
- ・支援や通所の場所が異なっても、感染についての意識付けは一致させることができていることに気づかされました。また、利用者だけでなく、保護者や支援者のケアも同時に行うことをもっとしていかないと感じます。一人も取りこぼさない支援をするために、直接接触しなくてもできる支援をもっと考える機会になりました。そのためにもリアルな現状を知ることが大事なので、現場で感じる、知るということをさらに行いたいです。感染症に対して、恐れるがあまり行動できないのではなく、正しく恐れてアクションするということを学びました。競争ではなく共生する社会の実現のため、もっと考えて行動しないと感じました。
- ・コロナに関する国の対策など、メディアは「良いか悪いか」で捉えがちであり、それを受け取る私たちもさらにそのメディアを通して「良いか悪いか」という観点から判断してしまいます。マスクがなくなれば配る、教育が遅れるから9月入学などありましたが、根本を考えるということが重要であることに気づかされました。私は福祉の現場で利用者さんに関わりますが、あくまでも福祉の範囲でしか関わらないと感じます。ご本人の生活の根本を考えた時、自分は何をすべきかと枠にはまらない考えが必要です。
- ・問題は山積みかもしれない。でも。進化すればよいのだ。輝く夢に！ 進化複雑多様なものへと変化してきた。
更に広く、ものごとが一層優れたものに発展する。
- ・感染防止をしながら暮らしを楽しむ工夫や離れていてもつながる具体的な、自分たちでもできる実践。「アナログ」的に元に戻るのではなく、ユニバーサルデザイン的な環境を整え、前に進んでいきたいと思いました。
- ・色々な分野から現状やこの先の在り方について情報が与えられましたので、理解がより深まったように感じます。第3部も頭の中が整理しきれていないので、もう一度ゆっくり見直しが必要だと思います。

・自分自身ではコロナの影響について考えていたつもりでしたが、物がなくことや、こどもの休校など「今の目の前のこと」に対応していただけたなあと今日の話聞いて思いました。そして無意識のうちにコロナ前のもとに戻る生活をイメージしていたかも、と気づきました。専門性を超えた取り組みの話では教育と福祉、医療、地域が重なる部分が増えたら医ケア児が普通学級にいける可能性も広がるかな？あの子も行けるかな？と顔の浮かびました。インプットが多くて頭がいっぱいですが自分にも何ができるか考えていきたいと思えます。

・様々な立場からのお話をお聞きすることができてとても有意義な時間であった。人材確保と専門性の両立、どう職種を超えて連携していくかがこれからの課題であると大きく感じた。

・高い使命感に支えられていることには敬服しましたが、普通の活動者には逃げ場がなくなり、メンタルで厳しい展開となりそうです。できることしかできないという割り切りも表現すべきでしょう。権力的姿勢への批判やデータ不開示に言及する意見には全く同感でした。

・こちらのスピーカーの設定状況のせいかもしれないが、広い会場の音声が響いてとても聞き取りにくかった。とくに、やや早口になったり、顔を動かす（マイクから離れる感じ??）と、聞き取りにくさが高まり、前後の文脈から推測した。最後の方で、静止画になり音声も聞こえなくなったので突然終了したのかと思ったら、まだ続いていた。あの部分は何を話していたのか、気になる
推測している部分もあるが、話は面白かった。ただ、みなさんがディスカッションしているのを聞いているだけ、という感じで「いっしょ」感は薄い。講師への質問、というボタンもあるが、リアルタイムで投げかけてくれるのではなくて後でまとめて、なのでこのタイミングで質問なのか、しりたい。

・とてもワクワクハラハラするお話で、感情が高ぶりました。分断、分業、専門、をやめて、複合的に、総合的にのり代をはれるそんな人を自分目指すべきだと思うことができた。副業として福祉を手伝ってくれる人を受け入れるかどうかについての議論は、かなり興味深かった。部分的にボランティア的にかかわる人を本業としてかかわる人たちとうまくマッチングしマネジメントすることはかなり高度なものと思う。自分も福祉を本業としつつ、ほかの専門性に副業としてかかわること積極的にやりたいと思ったし、その別の専門性を取り入れることが、本業でかかわる利用者さんの暮らしの質がよくなるかどうか直結すると感じた。福祉だけ飲食店をやる、雑貨屋をやる、ビジネスについて学ぶことが肯定的に捉えられた。

・それぞれ第一線で活躍されている方のお話と取り組みを伺い刺激になりました。自分ができることを今の状況を最大限理解して、取り組みたいと思えます。コロナで起こっていることは潜在的にあったことだと思います。手段はいろいろありますが、人と人がつながりあう、助け合う、仕組みとそこでの自分の役割とできることを考えたいと思えました。

・富田さんのお話の中で、医療的な正しさが日常生活を侵食されてしまったとあったが、正しく私もそう思っていて、ただでさえ絶対的な立場である医療が、もはや信仰に近いものとなってしまったと危惧している。そうした中で、医療含め職種を超えての多職種連携の必要性を十分理解しているものの、現実的にできるのかと、今回のコロナ禍で更に困難になった気がする。今回のコロナ禍で、多くの職種で同じ痛みを味わったはず。その痛みの共有から新しい価値観を共有できるかが一つの鍵かなと思っている。戸枝さんの「福祉は医療に負けないほど命を懸けているか」の問いは、重く受け止めました。

・専門性を持った多職種連携が何故必要なのかを理解できました。専門職の方の普通が他の方々の普通と同じかどうか・・・。と言うお話は日常の中の他者と自分に置き換えても同じだなと納得しました。また、自分の立ち位置で何ができるかをどこまで真剣に考え続けられるか。や、この先のWithコロナをどのように進化して行けるかを考えたいと思いました。

・梶原さん、勝部さんのお話は実際の現場で働く自分にとっては、久しぶりに活力が湧いて来る感じがして、コロナで疲弊する職場の仲間や利用者さんにも聞いて欲しいなと思いました。私には知的障害を持つ子どもが居ますが、当事者に関わる関係者が行政の不理解で上手く立ち回れない事も多いです。誰もが当事者の気持ちや困難さを感じられる様に力を合わせられる様になったらと願います。福祉人材の確保は教育にかかっていると思います。分離教育で障害者を知らない子供達が育って来ている今、将来は危機的状況だと思います。早急に今のコロナの課題を打開出来ませんが、今回の経験を活かして世の中が動いてくれる事を願わずにいられません。

・コロナ時代を生きていく誰と繋がりたいかを改めて考えるきっかけになったり、地域を基盤として考えたとき、あらためて、フィジカルディスタンスを考えるのは全ての方に共通していることで、お互いにできることを止まる事なく進めていき、私自身も進化と変化できるよう今回のシンポジウムを参考にさせていただきます。ありがとうございました。

・第2部の川北さんの話もうけ、企業側もSDGs的な持続可能なビジネスモデルにシフトしていくなかで福祉人が例えば山口久美さんのように自閉症のAさんは〇〇だから部屋の構造はこうして欲しいと建築屋に依頼する、このような福祉を超えた企業とセッションしていくこと、この力が福祉人であればご本人の生活がもっとハッピーになるし、建築屋もノウハウになっていくとつながりを持ってイメージ出来ました。行政に支給量を求めていく限界と、支給量をもらうことが仕事になりつつある現状を富田さんの勉強会を受けた先輩の近藤さんから話を聞きました。だからこそ久美さんの7デイズの管理者向け研修（アウトプットの研修）があるのか、むそうの管理者のチェック項目として対企業、対社会の外を意識した能力が求められているのかと感じました。

・講師の皆さんの現場のお話を聞かせて頂き、出会っている一人一人の方を誰一人も孤立させず、取りこぼさないという信念と行動にとても憧れたことと、自分自身のこの3か月程を振り返り、恥ずかしく思いました。一人一人の状況を把握しに動き回り、求められていることをお届けできていたかと思うと、自信がありません。一緒に災害し、一緒に慌ただしく過ごしてしまったようにも感じます。今まさにコロナ前からの課題が今回のコロナで明確になり、実体験をした感覚です。第1部の武漢での取り組みや、第2部の俯瞰的な状況把握、シンポジストの皆さんの信念と行動力と、相手を知り共存し合う多職種連携の考え方。コロナで見えてきた課題は、実はコロナ前からずっとあった潜在的な課題そのものだったこと。第2派、第3派が来るとして、また感染症が当たり前の時代になったとして、自分自身の課題についても、自分の中で言語化できてきたような気がします。

・コロナといかに共存するか。withコロナの時代だからこそ、自然への畏敬の念を忘れることなく、傲り昂りを鎮めて、様々な世界と手を携えて進む時代を切り拓いて行きたいと思います。

・福祉・介護業界で特に現場にお金が回っていない、待遇と職務のバランスが取れていないことについて、真剣に目を向けるべきだと思います。どうして現場で働く人にキャッシュが回らないのでしょうか。

・ 自国第一主義でのコロナ対策ではうまく行かないのではと懸念。コロナと人間との共存に向けて、「忘己利他」(もうこりた)が不可欠だと思うが、教育の抜本的な見直しを痛感する。

・ 登壇者も多く、それぞれに貴重なお話でした。
ただ盛沢山だったので、もう少し絞ってもよかったかもしれません。

・ 勝部さんのお話は、実践に基づかれていますので説得力があります。コロナ後の地域福祉にありようについて、深く考えさせられました。

・ 自分が感じていた事を、表現してくれてもう一度かみしめて聞きたいと思いました。

・ シンポジストの選考が素晴らしかったと思います。地域や個々のクライアントのウェルビーイングを念頭に、真摯に向き合っていたらっしゃる姿勢に感銘を受けました。

・ シンポは、ゲストの専門の視点からの話題提供で終わるのではなく、交点を描くことに価値があります。時間の割り振り、演出段階の仕掛ける話題準備が練れていないなあと、思いました。ゲストが勿体ないです。

・ 現場ではどのように動かされていたかが聞けて、今さらながら視座が広がった。

・ 目の前の現実に対して、今までのやり方にこだわり続け無意味で見苦しい抵抗をしている面倒くさい4~50代の存在に強く共感します。私の職場でも3月~4月の対応の悪さにより、現場はひどく振り回されました。社会的な評判も著しく落とされたと思いますが、当の本人たちは未だに気づいていないと思います。
そうなるまいと強く決意しました。

・ 事業所で突発的な案件の連絡あり、動かざるを得なかったので、お話が伺えず残念でした。

・ 訪問看護師の梶原さんの現場報告にはらはら、勝部さんの現場報告と提言にぶんぶん頷き、極めて理論的な富田さんのご指摘にも、コメツキバツタかというほどぶんぶん頷き、加瀬東京学芸大学教授のコーディネートに舌を巻く。川北さん、戸枝さんのコメント、質疑応答も示唆に富んでいた。川北さんのまとめのところで、小規模多機能自治を実践する地区で、若い保護者が乳幼児保育施設の拡充の陳情に出向いたとき、その地区の長もついて行き、「これは我が地区の総意であるぞ」と、行政幹部にしっかりアピールしていたことを思い出した。年長者には若い人たちの信用保証、応援という役割もある。緊急時には、日頃の実践がモノを言う。肝に銘じておきたい。梶原さんがデモンストレーションしてくださったラップによるフェイスガードの作り方の動画を、ぜひ豊中で動画配信してください。

・ コロナで、今までの「労働、教育、都市、社会活動」など変えるべきものを変えるマクロの未来課題と福祉のミクロの現場課題が、自分の中で分断され、整理が難しかった。SDが「持続可能な開発を意識・社会の運命を」であれば、福祉分野以外の大きな提案もありでしょうか。

・富田さんの話がもっと聞きたかったなと思いました。

・勝部さんの生活に密着した活動に、頭が下がる思いがしました。医療関係者ばかりがクローズアップされてますが、実は生活を最前線で全力で支えている福祉関係者に、心から感謝の気持ちを伝えたいです。本当にありがとうございます！

・コロナにかかっても、お互いに寛容でいられれば、コロナがひろがることも抑えられるよなと思いました。飲み会に行ってコロナに感染したら悪人のように扱われる世の中では、息苦しすぎます。大人だって羽目をはずさないとやってらんないこともあります。それを皆が理解し合えたらいいなと思います。そのためにも、皆がまず余裕を持たないと。自分に余裕がないと、他人を思いやれないと思います。自分をいたわって大切にできる、そして周りの人も大切にできる世の中になるといいなと思います。

質問5 Q5.今回、ライブ配信で開催し、設問の回答や講師への質問ができる機能（KK2デジタルプレゼンテーションプラットフォーム）をご利用いただきました。今回の方式でのご参加について、またその他全体の運用でお気づきになったことやご意見ご感想をお願いいたします。（自由記述）

【自由記述】

- ・このような社会状況の中ながら未来志向の本取り組み感謝します。kk2の参画型のシステムも大変良かったです。お疲れさまでした。
- ・回答数が多いと集計結果もより精度が高く、リアリティが増す気がしました。
- ・途中で止まってしまうことが何度もありました。オーヤンさんと勝部さん。勝部さんは同じところで止まるので再生ボタンを何回も押してみましたが、一度オフにしてもう一度出したところ、富田さんのお話が終わるところでした。今後、このようなことが想定される場合は、リセットすることがいいなら、そのようにガイダンスいただくのがいいと思いました。お話を期待していたので残念です。
- ・たいへん勉強になりました。また、この種の運営について、たいへん参考になりました。会場に聴衆がいないと、聴衆の反応がわからず一方的な話になってしまいます。ネットで聴いていると、すらすらぺらぺら流れてしまい、理解するのは至難です。この種の運営では、発信側、講師が相当配慮しないと聴衆に伝わらないということがよくわかりました
- ・この方式は参加しやすい。全体の時間が長すぎると感じた。録画部分は予定時間を厳守して編集したものを流して欲しい。予定時間で退出します。
- ・音声は概ねよく聞こえました。ディスカッションの時は、画面に人が映っているとライブ感をさらに感じられたと思いました。すばらしいアクションありがとうございました。
- ・双方向のシステムでとても良かった。通信の不具合も気にならなかった。法定研修がなかなか県単位では、環境整備をするお金もスキルも担当に無いため話が進まず、悶々して居たが、こんな風に国レベルでできるのになあという想いが、実現出来るよねという確信になった。
- ・もちろん足を運んで現地で学ぶことは多いのですが、こういうスタイルもあっていいと思います。字幕は難しかったですでしょうか、聴覚障害がある方へのサポートがあるとより良かったなと思いました。
- ・子どもを見ながら参加できるのはほんとに楽です。勉強したい気持ちはすごくあるのでまたこのようなWEBでお願いしたいです。ありがとうございました。
- ・気軽に参加することができて、良かったです。時々、フリーズするのは、致し方ないのか・・・。
- ・初めてのウェブ研修でしたが、ほぼ安定した状況で受講できました。時間が少し長く中だるみが出てしまいました。すみません

・ありがとうございました。

・コロナはただと感染症ではなく、長期に広がる災害であると強く感じました。感染者である被災された方々への支援や災害によって二次災害を受けた方に対する支援と同等に、その見えない部分でダメージを受けている三次災害を受けた方へももっと焦点を当てて、協働して支えていく社会になってほしいと強く感じました。

・他の方がどのような質問をしているのか、意見を挙げているのか、等が見られない試用なんでしょうか？ せっかくなので、チャットのように書き込みができたり、そのコメントに「同意」ができたり、参加者同士もつながれる空間があると良いと思いました。ブレイクアウトセッションも、あると良いかなと思いました。

・初めて参加しましたが、移動せずに聞けたのは助かりました。ありがとうございました。

・重症心身障害を持つ子の親です。自宅で聞けるライブ配信ほありがたいです。親子で聞かせていただきました。元気が出ました。

・こういった研修の在り方も、新しい時代を感じました。電波は途切れましたが、多くの人が動かなくても（移動しなくても）、繋がれますね。

・ただ聴講するだけでなく、とてもよかった

・これからはこのようなスタイルになるのだと思います。質問も確実にできるし、意見も伝えられる。遠くに居ても、最先端を知ることができる。ありがとうございました。

・多少音声途切れてしまう場面などがありましたが、概ね聴きやすくて良かったです。ありがとうございました。また利用したいです。

・これもこのコロナ禍で生まれた新しい形だと思います。

・シンポジウムの部分の映像や音声に少々乱れがあった以外には、スムーズだと思いました。

・質問事項をもう少し増やしていただくと、双方向のベニフィットが増すのではないかと。

・400人近い人が、見えないけれどつながっていることが感じられてよかった。どんどん活用していきたいですね！

・大変有意義な時間でした。自宅にいながら、シンポジウムに参加できるのは、すばらしいです。まさに進化です。ありがとうございました!!☑

・音声少し聞き取りづらい場面が改善されればありがたいです。ありがとうございました。

・新たな取り組みで運営にご苦労があったかと思っております。このような発信をしてくださり本当に感謝しております。我が家には、障害を持つ娘がおり、このような長時間な講演に、土日に出かけて参加するのは非常に難しいのですが、今回は娘がぐずったときに散歩に出ながら、ラジオを聴くようにして参加させていただきました。ぜひとも宜しくお願いします。

・今回このよな研修機会ありがとうございました。
離れていてもみれる状況はとてありがたく、よかったです。

・子育て中なので、自宅でリアルな話をリアルタイムで聞けるのはとてもいいです。こういう参加方法によって機会が確保できることで、取り残されないこともあるのかもなと思いました。基本的には不便なく聞けたのでよかったです。ありがとうございました。

・途中で、どちらが原因かは分からないが通信が途絶えることが何度もあり、聞き逃してしまうことも多かった。質問をリアルタイムに送れるのはいいと思います。

・簡単に入れて、貴重なお話を聞けました。ありがとうございました。

・音声の途切れを少なくし、資料説明時に説明箇所を指し示せるようになるとより一層リモートセミナーも視聴しやすくなると思います。

・リアルタイムに質問に対応するインタラクティブな進行ができるとさらにライブの価値が高まるものと期待されます。

・東京に行くことなく、参加できたことはとてもありがたかった。地方に住むものとしては、興味があっても距離があり参加できず、情報格差が生まれやすかったので、今後こういう形の研修が増えてほしい。ただ音が乱れることが度々あったのは残念でした。

・とても素晴らしいシステムだと思います。

・セッション最後の戸枝さんのまとめの音声が聞こえませんでした。

・長い。 ・長いので、集中して見てない、見れない。ゆえに話がどこに向かっているのか分らない。 ・視聴後、改めてチラシを見て「ああ、そうか。これは何かを提案しているのではない。知識、経験を伝えたいのでもない。どんな支援が必要か、どうすれば明るい未来が来るか、一緒に考えることが目的だったのか」と分った。私の視聴姿勢が間違っていました。反省。

・時々、音声途切れたりしましたが、概ね安定していました。

・部屋の大きさや、構造によって音声聞き取りにくい時もありました。府県を超えて移動自粛をしている現状では、今回のような試みも広がっていくと考えます。

・自宅にいながら会場にいるかのように参加できた
時々音声途絶えたり、不調になったりしたものの、特に問題には感じなかった
今後もこのようなセミナーなどに参加したい

・事前に資料をダウンロードできるとありがたいと思いました。

・一時的に声が聞こえなくなったり、動画が止まってしまう場面がありましたが、少し経つと改善しました。本日はありがとうございました。

・ライブ配信！とても良かったです。これなら、全国繋がれますね。
もっとたくさんの、頑張っている方々にお会い出来る可能性を強く感じました。
今後も、ライブ配信のふわりんに期待しております。
もっと、知人にも声をかければよかったです。ありがとうございました。

- ・会場に赴いての参加が求められたら、おそらく参加できなかったと思います。コロナの影響でオンライン化されていく学びや情報収集の場に参加することができています。今回も参加する機会が得られたこと嬉しく思います。途中回線が危ういときがありましたが、概ね問題なく視聴することができました。ありがとうございました。
- ・初めてライブ配信の研修に参加しましたが、接続等はとても快適で良かったです。川北先生のデータの見方、戸枝さんのおっしゃったような使い方がシームレスにできたらもっといいな～と思いました。WEBでの進行等も勉強になりました。このような配信を無料で提供していただき、ありがとうございました。
- ・参加者の反応や質問がすぐに反映されて、一般の講演やシンポジウムより参加している感がモチベーションがあがりました。何より、遠い地から気軽に参加できたのが、とっても良かったです。ありがとうございました。
- ・初めて聴講させていただきました。PowerPointの見ずらさはありましたが、自宅で参加できるのはありがたいです。
- ・もう少し設問が多くてもよかったですと思いました。時間が長かった為、振り返りながら参加する意味でも、設問に答えながら、ほかの方の考えも参考にして、参加したかったです。
- ・シンポジウムのシーンでは、ほんの少し音声途切れたり、映像がクリアでなかったりしましたが、おおむね問題なく視聴できました。PCからBluetoothのイヤホンに音声を飛ばして、画面から離れて音声だけ聞いている時間もありましたが、スライドのないシンポジウムの部分などは十分に耳だけ参加でもお話は理解できました。ふだん、KK2のスタジオでのライブ配信を家で視聴しているのと同じ感覚で視聴することが出来たので、特に問題は感じませんでした。
- ・途中で声が途切れる事がありました。聞き取れない所もありましたが、参加出来て良かったです。
- ・音声の切れたところがありましたが、全体的にはリアル・シンポジウムと差はありませんでした。質問者の声が聞こえないのが違うくらいでした。
- ・物理的な距離を気にせず参加できたこと、また、移動時間が不要なので、午前中の予定とこちらのどちらもあきらめずに参加できたことに感謝です。
- ・画質ですが、個人宅で20インチ程度のモニターで視聴するのなら、高画質よりも低画質のほうがよいかもしれません。最初、標準画質で視聴していたのですが、パケット消費が早いので途中で低画質に切り替えたところ、プログラムがだいぶ先に進んでいました。PPTのスライド遷移時間、DPPのレスポンスもよいように感じました。推測ですが、画質を落とすとエンコード時間が短くなり、タイムラグが少なくなるのかもしれない。
- ・リラックスした状態で参加することができました。しかし、時々電波が悪く、途切れ途切れになってしまうことがありました。なかなかスライドの文字や、講師の先生がどこの部分を話しているのかが分かりづらい部分があったので、手元に資料等があると、分かりやすかったです。
- ・素敵な配信ありがとうございました。参加しているとより感じる事ができるため、「設問」などももう少しあってもよかったですと思います。webで配信を見れることで場所問わず聞いてとても良い機会でした。

・設問をリアルタイムで見れるなど参加型なところが良かったです。家で見れることもあり参加者も見やすいと思うのでもっと設問があってもいいかなと思いました。ありがとうございました。

・もっと活用してもいいかも。双方向は面白い。
あと、観客席みたいな、画面もあってよいのかも。

・とても視聴しやすく、臨場感もあってよかったです。

・設問はもう少しあった方が良かったのではないのでしょうか、長時間でかつ余り知らない分野の話なので、なかなか質問を考える余裕もありませんでした、もっと勉強が必要ですね。

・どこにいても参加できるという点がとても良いと感じた。質問等はやはりその場で聞いて、その場で返答をいただけるということが良いのではないかと感じた。もし今回のような形であっても、後日そのご返答をいただけるという形があるとありがたい。

・5時間はかなりお疲れさまでした。分割ライブとかブレイクを思いきってランチにしてしまって1時間くらい休憩するとか、工夫があってもいいと思います。
理事長の登場がなくて残念！ありがとうございました。

・映像の画面がでていると、下にある元のページが見えなくなる。タイムテーブルや出演者を確認したいときにすぐできないのが、ちょっと使いにくい。
もうひとつタブを作って、そこで見なくてはならない。

・貴重なお時間をありがとうございます。とても刺激をいただきました。
ぜひ、第2回をお願いします。

・最後の戸枝さんの音声は完全に途絶えましたが、他は聞き取り難い箇所もありましたが、ストレスを感じることなく参加できました。

・テレビ会議以外でインターネットを使った双方向の仕組みを初めて体験できました。慣れていないので画面に唐突に表れる表示に戸惑ったり「このボタンをクリックしたらどうなるのかな」と恐る恐るの参加でしたが、興味を持って参加できました。途中、ところどころ音声途切れたりしましたが、アーカイブを作成していただけるとの事なので助かります。運営にたくさんの方のお力をいただき、このような機会に参加させていただけたことを感謝いたします。ありがとうございました。

・ふわりんクルージョンにいつも参加したいと思っていましたが、遠くて参加出来ず…ライブ配信は、本当に嬉しいです！シンポジウムの時に、登壇されている皆さんが観られないのが、少し残念でした。ディスカッションしている様子が見られるとより良いかなと思いました。全般的に大満足で、今回のカタチでの研修は家を開けられない自分には、本当に有意義でした。今後も継続して欲しいです。ありがとうございました。

・リアル、リモートとライブの融合への挑戦と拝聴しました。1. 演者ごとの映像、音声もう少し均一化できればありがたいです。2. 会場での出演者の画像ピントのフォーカスが気になりました。

・設問の回答、質問、アンケート、どれも簡単にできてとても便利な機能だと感じました。第1部、第2部は録画とのことでしたが、第3部のようにその場でお話をされているように感じました。こんなに簡単な申込のみで、しかも自宅でこのような豪華な講師の皆さんのお話をお聞きできることが、とても驚きです。貴重な機会を頂き、ありがとうございます。

・とても良かったです。正直言って、長時間のオンラインはきついと思いました。自分なりに休憩を取りながら、参加させて頂きました。拝見できなかった所は、後日、動画を拝見できることも良いと思いました。ありがとうございました。

・聴き手は聴く一方ではどうしても集中を保つのが難しい。話し手は持ち時間の中で盛沢山に話すが、話のスピードについていけない人が増える。聴き手が設問を受け止め考え回答する時間を多くするべきだと思う。

・1部、2部の音声はクリアに聞こえましたが、3部のシンポジウムの際のみkk2会場にいらっしゃる方（戸枝氏以外）の音がやや聴きにくかったです。パソコンで参加しましたが、3部の資料がもう少し画面いっぱいに出たほうがわかりやすいです。（画面の両サイドが黒く何も出ていなかったのでも、楽しめた時間でした。

・外部からの質問が2問だけだったのかな？あればもっと聞いてみたかった。シンポジウム方式の時司会の加瀬さんや戸枝さんのマイクはよく聞き取れましたが、梶浦さんの声がハウリングをしているのか、聞き取りにくかったです。もう少しスタジオ組の顔をもう少しアップができるといいのになと思いました。

・時間が延長になったことから、ファシリテーションには改善の余地があると思いました。特に、第一部は中国の方のナラティブに時間をかけすぎたように思います。

・掲示板をキャプチャ出来たらとおもいました。さんねんです。

・このように、後からアンケートに答えられるのはありがたいです。

・能力が追いつかず内容を消化しきれなくて残念です……。私にとっては2回に分けて欲しいぐらいの内容でした。

様々な研修や講演会が中止になっているなか、貴重な機会をありがとうございました。

・音声時々切れてしばらく復帰しないということが数回ありました。こちらのWi-Fi環境のせいなのかもしれませんが…ただ、こうした形での研修が普及してくれば、より様々なお話を聞く機会も増えると思います。一方で、直接いろんな方々とお会いする機会としての研修の意義もあると思いますので、すべてがオンラインでOKだとも思いません。その辺りのバランスの取り方が難しいですね。主催者・スタッフの皆様、ありがとうございました。

・もっと設問などのやりとりがあれば「参加している」感が出たと思います。

・所属団体で、いずれはオンラインでのシンポジウム開催の可能性が高く、参考にしたいとの思いもあって視聴させていただいた。もちろんテーマと、登壇者が申し込みの決め手ではあったが。このところのオンライン会議などでの疲れもあり、流石に5時間近くPCに貼り付いているのは、大変だった。が、全国どこからでも視聴できること、設問や質問機能が用意されていて、双方向、参加していると感じられるのはよかった。ご準備、仕込みはリアル開催とはまた違うご苦労があったと思うが、学ばせていただくこと大。ありがとうございました。

・職場で大きな画面で複数で参加しました。画像も音もよかった。

・またライブ配信やって欲しいです。地方だと参加が難しかったりするので、配信が積極的な世の中になって欲しいです。

・リアルタイムでアンケート結果が集計されるシステムは、とても臨場感があって、みんなで聴いている感じがすごくしました。
時間をもう少し短く、数日に分けてやっていただけると嬉しいです。